



病院と在宅をつなぐ特定ケア看護師の責任 —在宅NPPV導入の患者とのかかわりを通して—

石岡第一病院 石橋侑香

はじめに

4月も後半になり、新年度のあわただしさが落ち着いたころと思いますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。はじめまして、今月担当させていただき、石岡第一病院所属 NDC 6期生 石橋侑香と申します。

石岡第一病院は茨城県の県南に位置し、石岡周辺医療圏の中核病院として、コロナ患者の受け入れを含め、地域医療の発展に努めている病床数126床の病院です。私は2023年3月に特定行為の臨床研修を修了し、現在は特定ケア看護師として病棟や救急外来と幅広く活動しています。当院には特定ケア看護師が私を含め2人います。先輩の特定ケア看護師の活動する姿を目の当たりにしていると、とても頼りになる反面、これから私は同じように活動できるのだろうかと不安に思いながら日々を送っています。

特定ケア看護師を目指したのは

私が特定ケア看護師を目指した話をさせていただこうと思います。私は最初、強い希望を持って看護師を目指したわけではありませんでした。高校卒業後、手に職を得たいという考えで、働きながら看護師免許を取得しました。看護師として業務に携わる中で、さまざまな人に支えられ、患者様が元気に退院していく姿や「ありがとう」という一言に支えられ、あっという間に10年が過ぎ、今では看護師になってよかったと思っています。

茨城県は医療過疎地です。今まで、私自身が勤めた病院は中規模な病院であり、患者様の急変や病棟での「何かおかしいこと」に医師がすぐに対応困難なことが多々ありました。そんな中、不安を感じる場面をいくつも経験してきました。たとえ医師不足地域の病院であっても患者様に影響があってはいけないと思います。そう考えたとき、医師を支援し地域医療に貢献できる、特定ケア看護師の存在を知りました。そして、総合的なフィジカルアセスメントにより、自分で考え自分の判断に責任を持てる特定ケア看護師にいつしか私もなりたいと思うようになり、2021年4月特定ケア看護師になることに挑戦しました。

今はまだ、特定ケア看護師として働き始めたばかりで、まだまだ努力が必要であると痛感する日々ですが、少しでも多くの患者様に質の高い医療を提供できるよう努力を続けていきたいと思っています。

臨床研修中の経験から

今回臨床研修中に、在宅NPPV(非侵襲的陽圧換気)導入となった患者様の担当をさせていただきました。患者様は呼吸状態が不安定ではありませんでしたが、連日訪室し身体所見を取り、呼吸状態の観察だけでなく、声掛けを行いながら信頼関係を築くことができました。信頼関係を築くことで、在宅NPPV導入という患者様や家族にとって生活環境が大きく変わることでありましたが、受け入れていただくきっかけになった



石岡第一病院



診察の様子

と思います。また、導入に関しては、医師、病棟スタッフ、退院支援看護師、在宅酸素の業者など多くの方と情報共有、情報提供をすることで無事退院へつなげることができました。退院時の患者様の嬉しそうな顔は、今でも忘れません。「ときどき入院、ほぼ在宅」を目指す社会の中で、患者様のニーズに合わせた病院の医療・看護を在宅へつなぐことの重要性と、特定ケア看護師という立場の責任の重さ、地域医療の役割を強く感じた症例でした。

特定ケア看護師となり、私自身、一番不安であったことは、救急対応です。特定ケア看護師に

なる前は、内科病棟の経験しかありませんでした。特定ケア看護師となり、初めて救急外来対応を経験し、緊急性の高い患者様に、焦ることなく冷静に身体所見を取り、必要な検査や処置を行わなければならないので、今でも、分からないことで焦ってしまうことも多く、医師に指導を受けながら日々対応しています。

1年間の臨床研修を修了することができたのは、周りのスタッフに支えられたからだと思っています。今後もこのつながりを大切にして多くの方と協働し地域の皆様のために活動していきたいと思っています。

最後に

以前と比べより多くの患者様、スタッフと関わる機会が増え、活動の場も広がっています。これは、ご指導ご支援いただきました多くの方々のおかげであると感謝しております。特定ケア看護師としての活動は始まったばかりです。知識として足りないことがたくさんあると思います。身体所見の取り方、臨床推論、診断能力などもっと身に付けていきたいと思っています。特定ケア看護師として、「診る」と「見る」の視点で、一人でも多くの患者様に関わり、力になれるよう、これからも頑張っていきます。